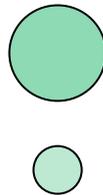




編集室より

あけましておめでとうございます。連日の寒波、大雪など厳しい年明けとなりましたが、産地も同様、藤井整絨の民事再生法申請など厳しいスタートになりました。昨年末の茶建興業に次ぐ再生法申請です。3月末には名門・片岡毛織の自主廃業も決まっています。相次ぐ染色整理の蹉跌、廃業は同業界が最も厳しい状況に追い込まれているからに他なりません。受注量の減少に加えて、受注単価の下落に苦しんでいたところへ、重油の値上げが襲いかかりました。各社、コストアップの転換努力をしましたが、安価な輸入品という“敵”に十分対抗できなかったわけです。しかし、尾州産地は分業で成り立っている産地です。糸染めの疲弊に加えて、染色整理のキャパシティ縮小は一大事です。行政を含めて産地が一丸となった対策が必要ではないでしょうか。T&F誌は微力ながら本年も産地発展のため、健闘します。引き続き、ご愛読、ご支援をお願い申し上げます。(MY)



テキスタイル&ファッション

編集・発行
監修

財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター
愛知県産業技術研究所尾張繊維技術センター
愛知県繊維振興協会